

創立者 黒澤西蔵先生の「理念と理想を」を継承する とわの森三愛高等学校

とわの森三愛高等学校長 村山 昭二

黒澤西蔵先生が、北海道に渡り、宇都宮仙太郎氏に出会い、酪農の魅力に取り付かれたのは20歳の時である。特に、北海道を東洋のデンマークにしようとの理想のもとに、デンマーク有畜農業の導入、更に、デンマークの自営農業経営者を札幌近郊に招いて、実際にデンマークスタイルの農法と農民生活を実践していただく等、積極的な活動を展開し、特に、先生は「圃場の科学がデンマークにある」と認識され、多くの若者をデンマークに派遣されている。

戦後、先生は、デンマークの復興に力を注いだ偉大なる宗教家にして教育者のニコライ・グルンドビーの「神を愛し、人を愛し、土を愛する、三愛精神」に感銘を受けられ、1946年に酪農学園の建学の精神(理念)として『三愛精神』を定められ、学園の教育理念をキリスト教の聖書に基づく方針として決定された。

特に、先生は、三愛精神は理屈とか解釈でなく実行であると語られ、心のおき方をバイブルにあるようにすることを強調されている。

1 毎週の学校礼拝と実学教育

本校の1週間は全校生徒が出席する学校礼拝から始まり、聖書の問いかけに耳を傾け、静寂な中で祈りを共にし、特に「隣人を愛する」ことの意味と意義を学んでいる。

酪農経営科の場合、三愛精神の中の「土を愛する」については、圃場実習、牛舎実習、ハウス実習等の「実学」を通して、神様から備えられている「生命や自然界」に謙遜な思いで関わることを学んでいる。

特に、酪農実習については、学園のインテリジェント牛舎での実習をはじめ、江別近郊の酪農家での体験実習、瀬棚・松山での農家実習、道北・道東酪農家での委託実習、デンマーク酪農家での実習等を通して、各地域での圃場管理、酪農経営方法等の実践的な学習を見聞している。

2 デンマーク酪農を直接に体験する

特に、酪農経営科3学年は、「三愛の精神」の発祥の地であるデンマークの酪農を学ぶために訪問する。3年間の酪農実習の総まとめの意味もあるが、創設者の黒澤西蔵先生が学び感動したデンマーク酪農と「三愛精神」を再認識するための酪農実習である。

生徒たちは、1~2名ずつ酪農家にファームステイをして、デンマークの生活や文化に触れながら、実際に酪農体験を実施している。

毎年の評価として、「生徒たちは酪農の基礎基本が出来ており、熱心に働いてくれる」と絶賛されている。

デンマークでの酪農実習に入る前に、カー口農学校を訪れ、デンマーク酪農について研修を深めているが、この6月にカール農学校の校長夫妻を本校に招き、姉妹校提携の調印式を行うことができた。この姉妹校提携は、両校の絆をより深めることであると共に、日本とデンマークとの友好に寄与するものと確信している。

3 全国の仲間と協力・共働し合う寮生活

本校には、男子寮である機農寮と女子寮のシオン寮があり、全国各地からの生徒達が入寮している。特に、酪農経営科の生徒は朝夕実習等もあるため全寮制の中で3年間寝食を共にしている。寮においては、夕礼拝の中で聖書を学び、一定のルールを通してメリハリある生活習慣を育み合っている。北海道から沖縄に至るまでの生徒が入寮しているため、多くの出会いと学びを共有することが出来る。

卒業後も連携が強く、酪農に関する情報等が交流されている。どちらの寮にも寮生会があり、寮生活の目標や行事等について、主体的に構築し合っている。

4 酪農学園大学との教育・進学連携

農業系の私立高校で、高校と大学が連携しているのは、全国で本校だけである。

本校は、酪農学園大学の付属高等学校であるので、多くの面で連携がされている。特に、大学の先生を高校の授業に迎えて、より専門的な分野の講義や実習を展開している。進学連携では、特別推薦制度を通して大学や短期大学部に入学できる。酪農経営科の生徒の70%が大学進学を志している。

以上、本校についての理念と教育活動の一端を報告させていただいたが、今後とも、北海道の基盤産業である酪農の発展に向けての担い手の育成と人間教育を、建学の精神を実行することを通して進めていきたい。